

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

北海道函館市 市立函館恵山病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	自治体職員 学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	4	-	ド透訓	救
人口(人)	建物面積 (㎡)	不採算地区病院	看護配置	
258,948	4,928	第1種該当	20:1	

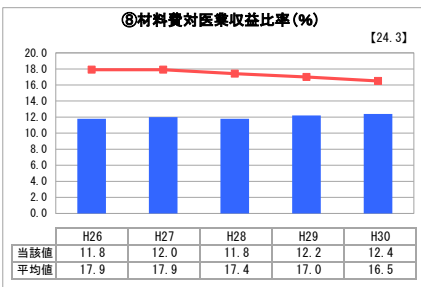
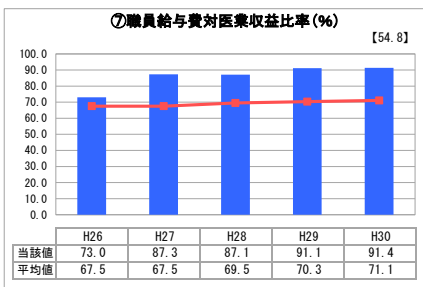
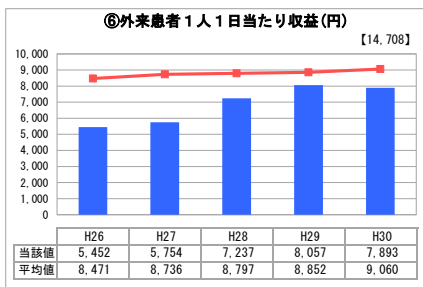
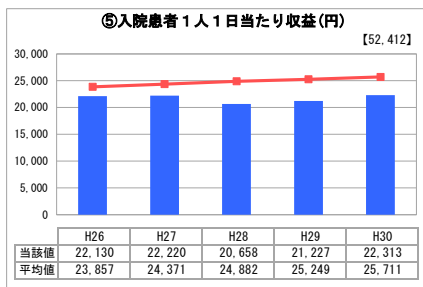
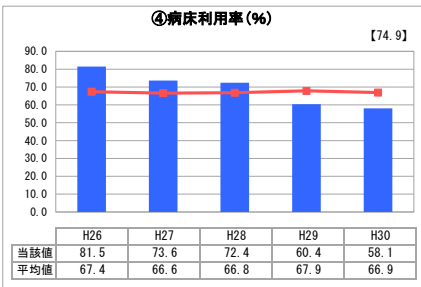
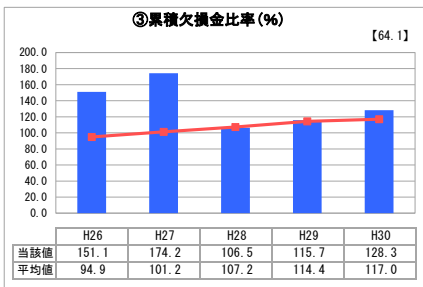
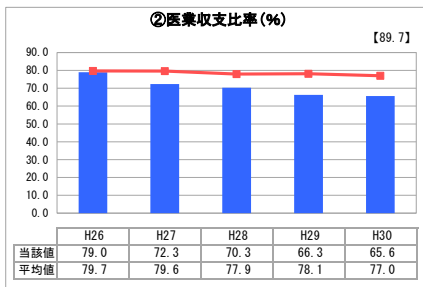
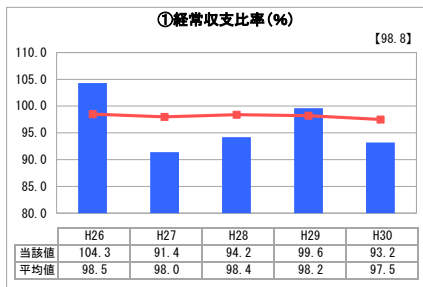
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

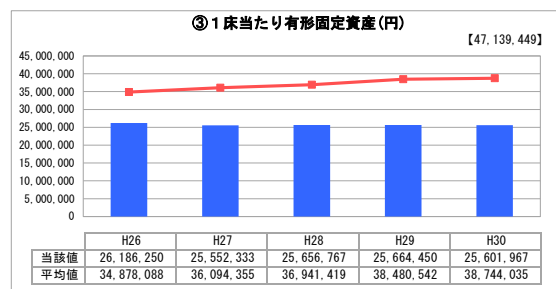
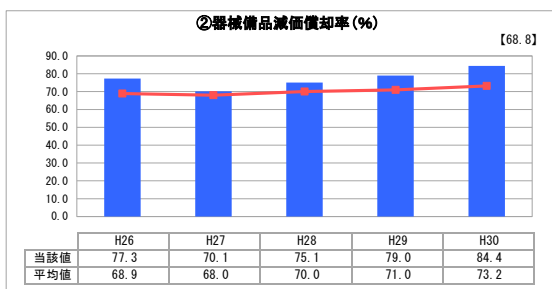
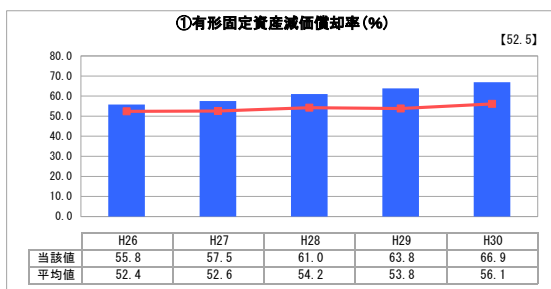
許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
-	60	-
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
-	-	60
稼働病床(一般)	稼働病床(療養)	稼働病床(一般+療養)
-	43	43

グラフ凡例
■ 当該病院値(当該値)
— 類似病院平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 公立病院改革に係る主な取組(直近の実施時期)

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-年度	-年度	-年度

## I 地域において担っている役割

市立函館恵山病院は、恵山・戸井・樺法華地域の中核医療機関であり、地域における唯一の病院として、入院医療、救急医療を提供しています。また、人工透析等に代表される慢性期の医療を、特に医療の必要度が高い方を中心に提供しています。なお、旧函館市の地域の患者も多く引き受けているほか、函館市での「在宅医療を支援している医療機関リスト」および「在宅医療を支援している医療機関リスト」に掲載されており、今後も引き続きその役割を果たします。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

地域の人口減少に伴う入院・外来患者数の減少等により医業収益が減少していることから、医業収支比率が平均値より低くなっており、病床利用率も平成27年度から低下しています。  
平成29年度の入院患者1人1日当たり収益の上昇および平成28年度からの外来患者1人1日当たり収益の上昇は、人工透析患者の増加によるものです。  
職員給与費対医業収益比率が平均値より高く、材料費対医業収益比率が逆に平均値より低くなっていますが、療養病床だけを有する病院に多くみられる傾向です。  
なお、平成28年度の累積欠損金比率の減少および平成29年度の経常収支比率の上昇は、一般会計からの繰入金によるものです。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は年々上昇していますが、機械備品減価償却率は平成27年度まで低下傾向にあります。これは、施設(建物)の老朽化が進みつつあるなかで、医療機器については一定程度更新投資を行っていることを表しています。  
当院は平成14年の移転新築から平成30年で16年を経過していることから、施設の老朽化が課題の一つとなっており、設備の計画的な補修、改修が必要となってきています。

## 全体総括

市立函館恵山病院は、恵山・戸井・樺法華地域におけるプライマリケア(初期医療)および救急医療の提供、ならびに慢性期における入院医療の役割を担っています。地域の人口減少に伴い患者数が減少する一方、救急医療等の病院機能の維持には一定の診療体制が必要であり、収益の増加と費用の縮減に努めるものの、両方で難しい状況にあるため、引き続き一般会計からの一定の支援を受けつつ、地域における唯一の病院として、その役割を果たします。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。